

プロトコール名		1クールの日数	放射線治療
多発性骨髄腫 Dara+Rd (1-2コース)		28日	■なし □あり
投与日	薬品名 (※赤字は抗がん薬)		
day1,8,15,22	レナデックス 40mg § ダラザレックス投与日は、投与1時間前までに内服。2コース目以降は問題なければ15分前まで短縮可。 ① カロナール 400mg, ネオマレルミンTR 6mg § ダラザレックス投与1時間前までに内服。2コース目以降は問題なければ15分前まで短縮可。 ② ソルコーテフ 200mg + 生食 50ml § ダラザレックス投与直前 ③ 生食50mL (フラッシュ) ④ ダラザレックス 16 mg/kg + 生食 * 0.2µmのインラインフィルターを使用すること ⑤ 生食50mL (フラッシュ)		
day1-21	レブラミド 25mg * ダラザレックスの希釈・投与速度について; 生理食塩液を用いて希釈後の総量を1,000mLとし、50mL/時の投与速度で点滴静注を開始。Infusion reactionが認められなかった場合には、患者の状態を観察しながら希釈後の総量及び投与速度を以下のように変更することができる。 ただし、投与速度の上限は200mL/時とする。 本剤の希釈後の総量及び投与速度 ①初回投与 希釈後の総量:1,000mL 投与開始からの投与速度(mL/時) 0~1時間:50 1~2時間:100 2~3時間:150 3時間以降:200 ②2回目投与 希釈後の総量:500mL※2 投与開始からの投与速度(mL/時) 0~1時間:50 1~2時間:100 2~3時間:150 3時間以降:200 ③3回目投与以降 希釈後の総量:500mL 投与開始からの投与速度(mL/時) 0~1時間:100※2 1~2時間:150 2~3時間:200 3時間以降:200 ※1:初回投与開始から3時間以内にinfusion reactionが認められなかった場合、500mLとすることができる。 ※2:初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionが認められなかった場合、100mL/時から開始することができる。		
コメント	day1-21にレブラミド25mg内服。Day1,8,15,22にレナデックス40mg内服。ダラザレックス投与1時間前までにレナデックス40mg+ネオマレルミンTR6mg+カロナール400mg内服する。2コース目以降は問題なければ15分前まで短縮可。		
プロトコールに関する解説			
プロトコールに関する解説はありません。			